

タルムード（一部抜粋）

●ユダヤ王は真の世界の法王となる

ユダヤ王は真の世界の法王、世界にまたがる教会の総大司教となる。〈十七〉

●臣民が王者に見たいのは力の権化である

重ねて述べるが、臣民は自分たちとは絶対的にかげ離れた力強い手に対しては、盲目的に服従する。かれらはそこに自分たちを襲う社会的な鞭から守ってくれる防御の剣を感じて支持するのである……かれらは王者に天使の心を期待するのか？かれらが王者に見たいのは力、力、力の権化なのである。〈二十三〉

●ダヴィデ王の子孫のうちの数人にのみ大真理が伝授される

ダヴィデ王の子孫のうちの数人が、相続権ではなく優れた資質を基準にして王と後継者を選定する。その人々には、政治の最高機密と政府の仕組とが伝授されるが、常に何びとにも極秘の知恵が漏れないように留意する。この方式の真意は、このような秘義を授けられたことがない者には、政府を委すことはできないということ徹底させることにある。〈二十四〉

●世界はただイスラエル人の為のみに創造されたるなり。イスラエル人は実にして、他の民は空なる殻皮のみ。従ってイスラエルの他に民族なし。彼等はことごとく空皮に過ぎざればなり。〈イエシャヤ法師〉

●人間の獣に優れる如く、ユダヤ人は他の諸民族に優れるものなり。〈アブラハム・ゼバ法師〉

●もしイスラエル人無かりせば、この世に幸福なかりしならん。これ申命記二八の八に記されたる如し。またイスラエル人無かりせば、天の諸星も昇らざるべし。これエレミヤ記三三の三五に記されたる如し。また地の上に雨の降る事なかるべし。これ申命記二八の一二に記されたる如し。〈シメオン・ハダルサン法師〉

●選ばれたる民のみ永遠の生命を受くるにふさわしく、他の国人はロバに等し。〈アバルバネル法師〉

●吾々はタルムードがモーゼの律法書に対して絶対的優越性を有することを認むるものなり。（イスラエル文庫、一八六四年）

●律法（聖書）は多少とも重要ではあるが、長老方が聖典に記された言葉は常に重要である。

●タルムードの決定は、生ける神の言葉である。エホバも天国で問題が起きたときは、現世のラビに意見を聞き給う。（ラビ・メナヘン、第五書の注解）

●掟の言葉より法師の言葉を敬え。〈アシ法師〉

●汝知るべし、法師の言葉は予言者の言葉より美し、と。〈アシ法師〉

●犬は異邦人より勝れたるものなり。〈アシ法師〉

●汝等イスラエル人は人間なれど、他の民族は人間に非ず。彼等の魂穢れし霊より出でたればなり。〈メナヘム・ベン・シラ法師〉

●ゴイの土地は荒野のごとし。最初に鋤を入れた者に所有権が帰する。（ババ・バトラ、一四のb）。

●ゴイに金を貸す時は必ず高利を以てすべし。〈モシェー・バル・マエモン〉

●ユダヤ人はゴイから奪ってよい。ユダヤ人はゴイから金を騙しとってよい。ゴイは金を持つべきではなく、持てば神の名において不名誉となるだろう。（シュルハン・アルーフ、コーゼン・ハミズパット、三四八）

●ノアの息子は小銭たりとも盗めば死罪に処せらるべきであるが、イスラエル人がゴイに損害を負わせることは差支えなし。なんじの隣人を傷つけるなかれとは書いてあるが、ゴイを傷つけるなかれとは書かれていない。（ミズナ、サンヘドリン、五七）。